

jp01019584/pn

L3 ANSWER 1 OF 1 WPINDEX COPYRIGHT 2006 THE THOMSON CORP ON STN
ACCESSION NUMBER: 1982-01158J [47] WPINDEX
TITLE: Electrophotographic developer contg. hydrophobic
colloidal silica - in both carrier surface and toner, has
excellent stability and can give high density images.
DERWENT CLASS: A89 G08 P84
PATENT ASSIGNEE(S): (CANO) CANON KK
COUNTRY COUNT: 1
PATENT INFORMATION:

PATENT NO	KIND	DATE	WEEK	LA	PG	MAIN IPC
JP 57168255	A	19821016	(198247)*		5	
JP 01019584	B	19890412	(198918)			<--

APPLICATION DETAILS:

PATENT NO	KIND	APPLICATION	DATE
JP. 57168255	A	JP 1981-53813	19810410

PRIORITY APPLN. INFO: JP 1981-53813 19810410

INT. PATENT CLASSIF.: G03G009-08

BASIC ABSTRACT:

JP 57168255 A UPAB: 19930915
Developer contains hydrophobic colloidal silica in both carrier surface
and toner.

The hydrophobic colloidal silica is put on the carrier surface e.g.
dissolving a small amt. of binding resin in a proper solvent. In the
solvent a hydrophobic colloidal silica is suspended. The carrier is
dipped in the suspension to form a coating of the colloidal silica.
Binding resin is e.g acrylic resin, alkyd resin, silicone resin, styrene
resin etc. Pref. content of hydrophobic colloidal silica in carrier is
0.1-0.5 wt.%, and that of binding resin 0.1-0.5 wt.%. The hydrophobic
colloidal silica is pref. in toner by mixing with each other under dried
conditions. Pref. content of the colloidal silica in toner is 0.4-1.0 wt.%
Binding resin for toner is e.g. styrene copolymer, polymethylmethacrylate,
polyester, polyvinyl chloride, polyacrylic acid etc. Carbon black or
other pigments or dyes may be incorporated in toner for purposes of
colouration, toning, charging control or so on. Carrier is e.g. iron,
ferrite, silicon, SiO₂, etc.

FILE SEGMENT: CPI GMPI

FIELD AVAILABILITY: AB

MANUAL CODES: CPI: A12-L05C; G06-G05

BEST AVAILABLE COPY

④日本国特許庁 (JP) ①特許出願公告
 ②特許公報 (B2) 平1-19584

③Int.Cl.⁴ 識別記号 厅内整理番号 ④⑤公告 平成1年(1989)4月12日
 G 03 G 9/08 375 7265-2H
 9/10 361 7265-2H

発明の数 1 (全5頁)

⑥発明の名称 二成分電子写真用現像剤

⑦特 願 昭56-53813 ⑧公 開 昭57-168255
 ⑨出 願 昭56(1981)4月10日 ⑩昭57(1982)10月16日

⑪発明者 小林廣行 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内
 ⑫発明者 今井栄一 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内
 ⑬出願人 キヤノン株式会社 東京都大田区下丸子3丁目30番2号
 ⑭代理人 弁理士 谷山輝雄 外3名
 ⑮審査官 結田純次
 ⑯参考文献 特開 昭54-35736 (JP, A) 特開 昭54-21730 (JP, A)
 特開 昭46-5782 (JP, A)

I

⑦特許請求の範囲

1 トナー、疎水性コロイド状シリカ及びキヤリアを含有する二成分電子写真用現像剤において、キヤリア表面が樹脂及び疎水性コロイド状シリカでコートされており、キヤリアのコート層は疎水性コロイド状シリカを該樹脂よりも多く含有していることを特徴とする二成分電子写真用現像剤。

発明の詳細な説明

本発明は、電子写真用現像剤に関するものであり、詳しくは、静電潜像を磁気ブラシ現像法もしくはカスケード現像法で現像する際に有用な乾式二成分現像剤に関するものである。

従来より、電子写真法については、米国特許2297691号、特公昭42-23910号、特公昭43-24748号公報等に記載されているごとく光導電層上にコロナ放電によつて、一様に静電荷を与え、これに原稿に応じた光像を露光させる事により露光部分の電荷を消滅させ潜像形成を行なう。この得られた静電潜像上に微粉末検電物質、所謂トナーを附着させることにより現像を行なうものである。トナーは光導電層上の電荷量の大小に応じて静電潜像に引きつけられ濃淡を持つトナー像を形成する。このトナー像は必要に応じて紙又は布帛等の支持表面に転写し、加熱、加圧又は溶剤処理や上塗り処理など適当な定着手段を用い支持表面に永久定着する。またトナー像転写工程を省略

2

したい場合には、このトナー像を光導電層上に定着することもできる。

前記、静電潜像の現像において、トナーは比較的大粒子であるキヤリアと混合され、電子写真用

5 現像剤として用いられる。トナーとキヤリアの両者の組成は、相互の接触摩擦により、トナーが光導電層上の電荷と反対の極性を帯びるように選ばれる。また両者の接触摩擦の結果、キヤリアはトナーを表面に静電的に付着させ、現像剤として、
 10 現像装置内を搬送し、また光導電層上にトナーを供給する。

現像剤の現像方法としては数多く知られている。米国特許第2618552号記載のカスケード現像法、米国特許第2874063号記載の磁気ブラシ法、

15 米国特許第2895847号記載のタツチダウン法、その他ファーブラシ現像法等がある。特に代表的な現像法としては、カスケード法と磁気ブラシ法が知られている。カスケード法は、ガラスピースなど磁性のない粒子を用い、表面に微粉末トナーを附着させ現像剤とする。この現像剤が静電潜像を20 帯びた光導電層表面をカスケードする時トナーが静電潜像の帶電部分へのみ選択的に付着し、非帶電部分へは付着しないことにより現像を行なう。

また磁気ブラシ法は、キヤリアとして鋼、フェ
 25 ライトなど磁性を有する粒子を用いる。トナーと磁性キヤリアとからなる現像剤は磁石で保持さ

れ、その磁石の磁界により、現像剤をブラシ状に配列させる。この磁気ブラシが光導電層上の静電潜像面と接触すると、トナーのみがブラシから静電潜像へ引きつけられ現像を行なうものである。

タツチダウン現像法はウエブ、またはシートのような支持層によつて現像剤を潜像支持表面へ運び静電潜像に従がつて現像を行なうものである。

本発明はトナーとキヤリアが併存する二成分現像剤を用いる現像方法に特に適用されるものである。

従来の技術においては、二成分現像剤を用い、電子複写装置で多数枚連続複写を行なうと、初期には鮮明で良好な画質を持つた画像が得られるが、数万枚複写後はカブリの多い、階調性及び鮮明性に乏しい画像となり、今だ充分耐久性に富んだ二成分現像剤は得られていない。

そのため、現在多数枚連続複写における耐久性能の向上を計るため、トナー及びキヤリアの両側面より鋭意研究が行なわれている。キヤリアに関しては、多数枚連続複写を行なう場合、現像装置内で繰返しキヤリアは使用される。その間キヤリア粒子相互、又はキヤリアと現像装置との多回の衝突等の大きな連続的な機械的衝撃により、キヤリアの割れ、欠け、あるいは摩滅が生じ、このため、キヤリアの形状の変化、あるいはトナーの附着が起き、キヤリアとトナー相互の摩擦帶電の効率が低下することが原因となり多数枚複写後、劣悪な画像となるとして、キヤリアとして用いられる物質の表面を被覆物質で被覆したものをキヤリアとして用いることが数多く提案されている。例えば、特公昭44-12674、特開昭49-123037、特開昭50-54336、などがある。しかし、かかるキヤリアでも、摩擦帶電特性、機械的特性などを要求される諸特性に対し、すべてにわたつて満足されるものはない。またトナーに関しては、多数枚連続複写後、トナーの流動性が低下し、キヤリアの劣化と相俟つて画質及び画像濃度の低下をきたすという欠点がある。このため、フタル酸塩、ポリフッ化ビニリデン、脂肪酸金属塩、グラファイトなどの、潤滑性あるいは非凝集性微粉末をトナー中に微量添加する方法が行なわれている。しかしながら、こうした微粉末の添加は、現像剤を連続使用する際微粉末がトナー中にうめ込まれたり、系外に飛散したり、トナーと添加剤の潜像面

への移動度が違うなどして混合比の変動をおこしがちで、初期に良好な画像が得られても、多数枚複写には耐えることが出来ないのが現状である。

本発明は、トナー、疎水性コロイド状シリカ及びキヤリアを含有する二成分電子写真用現像剤において、キヤリア表面が樹脂及び疎水性コロイド状シリカでコートされており、キヤリアのコート層は疎水性コロイド状シリカを該樹脂よりも多く含有していることを特徴とする二成分電子写真用現像剤に関し、上記の欠点を改良した、耐久性能が良好であり、また、高い画像濃度を与える二成分電子写真用現像剤を提供するものである。

本発明は、例えば米国特許第2874063号明細書に記載されている磁気ブラシ法、同2618552号明細書に記載されているカスケード現像法など摩擦帶電を利用し二成分現像剤を用いる現像方法に適用することは充分可能である。

本発明に於いて、キヤリアはその表面に疎水性コロイド状シリカを微細にかつ、均一に含有せしめ、またトナーは疎水性コロイド状シリカと乾式混合し、この両者の組合せによつてのみ前述の好ましい結果が期待されるものである。キヤリア表面に疎水性コロイド状シリカを含有せしめるには、微量の接着樹脂を適当な可溶性溶剤に溶解させ、それにさらに疎水性コロイド状シリカを懸濁させた後、得られた溶液中にキヤリアを浸漬せしめ、該キヤリア表面をコーティングすることにより得ることができる。

本発明に使用するトナーとしては公知のものがすべて使用可能であるが、トナーの接着樹脂としては例えばポリスチレン、ポリP-クロルスチレン、ポリビニルトルエンなどのスチレン及びその置換体の単重合体、スチレン-P-クロルスチレン共重合体、スチレン-プロピレン共重合体、スチレン-ビニルトルエン共重合体、スチレン-ビニルナフタリン共重合体、スチレン-アクリル酸メチル共重合体、スチレン-アクリル酸エチル共重合体、スチレン-アクリル酸ブチル共重合体、スチレン-アクリル酸オクチル共重合体、スチレン-メタアクリル酸メチル共重合体、スチレン-メタアクリル酸エチル共重合体、スチレン-メタアクリル酸ブチル共重合体、スチレン-aクロルメタアクリル酸メチル共重合体、スチレン-アクリロニトリル共重合体、スチレン-ビニルメチル

エーテル共重合体、ステレンービニルエチルエーテル共重合体、ステレンービニルメチルケトン共重合体、ステレンーブタジエン共重合体、ステレンーアイソブレン共重合体、ステレンーアクリロニトリルーアイデン共重合体、ステレンーマレイン酸共重合体、ステレンーマレイン酸エステル共重合体などのステレン系共重合体、ポリメチルメタクリレート、ポリブチルメタクリレート、ポリ塩化ビニル、ポリ酢酸ビニル、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリエステル、ポリウレタン、ポリアミド、エポキシ樹脂、ポリビニルブチラール、ポリアマイド、ポリアクリル酸樹脂、ロジン、変性ロジン、テルペン樹脂、フェノール樹脂、脂肪族又は脂環族炭化水素樹脂、芳香族系石油樹脂、塩素化パラフィン、パラフィンワックスなどが単独或いは混合して使用できる。さらに本発明に使用される現像粉中には着色調色、荷電制御等の目的で、カーボンプラツク等各種染顔料等が含有されてもよい。

また、本発明に使用されるキャリアとしては、磁性を有する物質、また有しない物質どちらでも用いることは可能である。例えば、鉄、鋼、 γ -フェライト、Ba-フェライト、Sr-フェライト、及びクロム、セリウム、マグネシウムの各酸化物、またはジルコン、ケイ素、二酸化ケイ素などがあげられる。これらの物質は平均粒径30~1000ミクロンの粒子として用いられる。

本発明で用いられる疎水性コロイド状シリカは、通常の親水性シリカ分子の末端シラノール基を有機珪素ハロゲン化物などと反応させ、1~3個の疎水性の有機基を有する珪素原子を、酸素原子を介して、酸化珪素に導入したものである。疎水性コロイド状シリカは、粒径数 μm から100 μm 程度の極めて小さな微粒子で、BET表面積100~400 m^2/g の表面積の非常に大きな嵩高い物質である。

このような疎水性コロイド状シリカ微粒子は市販として米国タルコ社製タラノツクス500、アセロジル社製アエロジルR-972などを使用することができる。

疎水性コロイド状シリカをキャリアの表面に含みさせ、さらにトナーに含有させることにより、なぜ、画像濃度が向上し、耐久性能が増すのかは充分には解つていない。疎水性コロイド状シリカ

によって、キャリアの表面に形成された微細な粒子の凸凹、それに含まれる空気層により、トナーとキャリアとの密着がゆるやかになる、あるいは、特に親水性物質では、付着力を増す原因となる水が存在しないことによつて、トナーとキャリアとの付着が軽減されるなどして、帯電したトナーの感光体表面の静電潜像面への移行を容易にすることなどが考えられる。

また、トナーに含有された疎水性コロイド状シリカは、多数枚複写後ある一定の量はトナー中に埋め込まれるなどしてトナーの流動性の低下を起こさせるが、しかし、キャリア表面より供給される疎水性コロイド状シリカにより、トナーの流動性の低下はある程度軽減されると推察される。事実、キャリアの表面にのみ疎水性コロイド状シリカを含有させた現像剤での耐久性能は明らかにトナー、キャリア両者に疎水性コロイド状シリカを含有させた本発明の現像剤の耐久性能に劣ることが判明している。疎水性コロイド状シリカはキャリアに対し0.1~0.5重量%、その表面に含有することにより効果が生じる。またトナーに対しては0.4~1.0重量%含有することが必要である。トナーに含有する疎水性コロイド状シリカの量比を増やすに従がつて画像濃度は増すが、1.0重量%以上の添加は反面画像上にカブリが生じ、不鮮明な画質となる傾向がある。また、0.4重量%以下の添加ではトナーの流動性及び、画像濃度に好影響は及ぼさない。

キャリア表面に疎水性コロイド状シリカを含有せしめるため、同時に添加する結着樹脂は、キャリアに対し0.1~0.5重量%添加することが好ましい。結着樹脂としてはアクリル樹脂、アルキッド樹脂、シリコン樹脂、ステレン樹脂、が適宜使用できる。以上の材料の他に本発明のキャリアには必要に応じてカーボンプラツク、金属微粉及び染料、顔料などの着色剤等を添加することができる。

次に本発明の実施例を示す。

実施例 1

40	アルキッド樹脂	4 重量部
	疎水性コロイド状シリカ (商品名タラノツクス500)	5 重量部
	メチルエチルケトン	500重量部
	よりなる疎水性コロイド状シリカ分散樹脂溶液を	

50°Cの雰囲気に浮遊する粒径50μ～200μの鉄粉1000重量部に噴霧し、1時間乾燥して、表面に疎水性コロイド状シリカを含有するキャリアとした。ついでスチレン樹脂及びカーボンブラックよりなる粒径2～20μのトナー100重量部と疎水性コロイド状シリカ(商品名タラノツクス500)0.4重量部をヘンシエルミキサーにより乾式混合し、目的のトナーを得た。上記のキャリアとトナーを混合して現像剤とした。この現像剤を用いた電子複写装置(NP-500、キャノン製)で磁気ブランシ現像法により、複写を行なったところ、かぶりのない、鮮明な画像を得た。2万枚複写後の画像は、画質の劣化がなく、初期の高画像濃度を保持していた。

実施例 2

スチレン樹脂 3重量部
疎水性コロイド状シリカ(商品名アエロジルR-972) 4重量部

トルエン 500重量部
よりなる疎水性コロイド状シリカ分散樹脂溶液を実施例1と同様にして疎水性コロイド状シリカ含有キャリアを得た。また、スチレンーアクリル共重合体を結着樹脂とする黒色トナー100重量部と疎水性コロイド状シリカ(商品名アエロジルR-972)1.0重量部を乾式混合し、シリカ含有トナーを得た。これらを混合して現像剤とし、実施例1と同様に複写を行なつた所、2万枚複写後も初期画像をほぼ匹敵する良好な画質と画像濃度が維持された。

比較例 1

スチレン樹脂 3重量部
疎水性コロイド状シリカ(商品名アエロジルR-972) 4重量部

トルエン 500重量部
よりなる疎水性コロイド状シリカ分散液を実施例1と同様にしてシリカを表面に含有するキャリアを得、さらに疎水性コロイド状シリカを含有しないポリエステル樹脂を結着樹脂とする黒色トナーと混合し、現像剤とした。

これを実施例1と同様に複写した所、初期画像は、カブリのない鮮明な、画像濃度の高いものが得られたが約1万枚複写後、画像濃度はほぼ初期と同程度を維持するも、画質的にはカブリが発生し、シャープネスに劣る画像となつた。

比較例 2

スチレンーアクリル共重合体を結着樹脂とし、疎水性コロイド状シリカを0.5重量%含有した黒色トナーと、実施例1と同様であるが、疎水性コロイド状シリカを表面に含有しないキャリアを混合し、現像剤として、電子複写装置(NP-5000、キャノン製)で複写した所、初期は、カブリのない良好な画像であつたが、7000枚複写後、画像濃度は低下しカブリが発生した。この時トナーとキャリアを分離し、初期トナーと耐久後のトナーの安息角を比較した所、それぞれ21°、50°であつた。明らかに連続複写後のトナーの流動性は低下していることが判明した。

以上の実施例、比較例の試験結果を表-1に示す。

表 - 1

	復写枚数	画像濃度			
		実施例		比較例	
	1	2	1	2	
1枚目	1.38	1.45	1.40	1.42	
5000	1.42	1.43	1.38	1.25	
10000	1.39	1.38	1.41 (カブ リ発生)	7000枚で 1.03 (カブ リ発生)	
15000	1.43	1.40			
20000	1.44	1.42			

実施例 3～8

下表のように、疎水性コロイド状シリカを含有したトナー、及びキャリアを実施例1と同様に調製し、耐久試験を行なつたが、いずれも良好な画質と画像濃度を維持した。

実施例	トナー			キャリア			耐久試験(20000枚後)	
	接着樹脂	着色剤	疎水性コロイド状シリカ	接着樹脂	キャリア	疎水性コロイド状シリカ	画質	画像濃度
3	スチレン-ブタジエン共重合体	カーボンプラック	タラノツクス500 0.6重量%	アクリル樹脂	鉄粉	タラノツクス500 0.1重量%	○	1.37
4	〃	〃	アエロジルR972 0.5重量%	アルキッド樹脂	〃	タラノツクス500 0.1重量%	○ (鮮明性にすぐれる)	1.35
5	スチレン-アクリロニトリル共重合体	〃	タラノツクス500 0.4重量%	アルキッド樹脂	〃	アエロジルR972 0.5重量%	○	1.45
6	ポリエステル樹脂	〃	アエロジルR972 1.0重量%	シリコン樹脂	〃	アエロジルR972 0.3重量%	○	1.40
7	ポリアクリル酸樹脂	〃	タラノツクス500 0.8重量%	同上	〃	アエロジルR972 0.3重量%	○	1.34
8	スチレン樹脂	〃	アエロジルR972 0.6重量%	同上	〃	アエロジルR972 0.5重量%	○ (画像濃度高い)	1.47